



一人ひとりのよさが輝き 響き合う学級へ

上野芳樹

学級組み替え案まで出た子どもたちとの出会い

新学期二日目の朝。朝の打ち合わせが済み、教室に向かう廊下の向こうから騒々しい声が聞こえる。朝自習などそっちのけであそんでいるのだ。教室に入ると、T男が泣いている。音読練習をしていたらK男が本を横から取り上げて捨ててしまったという。何とかその場をおさめて、学級会で係活動の話し合いを始める。するとこんどは、自分がなりたい係になれなかったと言ってM子がすねて泣いてしまう……。

この年、私が担任することになった学級には、三年の

学年末職員会で「学級の組み替えをして出直したらどうか」と提案されるほど、さまざまな課題を持った子どもたちがいた。

父子家庭のせいかな情緒不安定で、些細なことで泣きわめき手がつけられない状態になるY男。授業中、まわりの子をたたいてまわったり、給食のおかずの中に靴をつっこむというようないたずらを繰り返し、まわりの子から恐れられているK男。カッとなると、すぐ学校から飛び出してしまふN男。いじめられっ子のT男。不登校ぎみのE子やU子など。

そんな子どもたちとの一年は、いったいどんなことになるのか、私には見当もつかなかった。

綴らせ、それを学級通信に載せては読み合う、ということを始めました。

五月七日 梅田美香

今日昼休みにゆうた君とわたしとほくと君としゆき君と先生とふとし君とかずとし君とまゆかちゃんとまゆちゃんとあみちゃんともみちゃんとゆかこちゃんて花いちもんめをしました。ときどきゆうた君が「まけてうれいはいないちもんめん」

とか言うのでとってもおもしろかった。かずとし君がとつきしてくるのに女子だけみんな

「キヤーツ」

と言ってにげていました。ちょっとこわかったけど、とってもたのしかったです。

(先生、またやろうなー！ ぜったいやで)

ふだんの授業では集中してくれない子どもたちも、みんなの日記を読み合うときだけは不思議と静かになった。そして、美香の日記にあるように、男の子も女の子もいっしょにあそび合えたり、私と子どもたち一人ひとりの間にもパイプが繋がっていく手応えを感じるように

なっていました。

子どもの素朴な発言をだいに受け止めて

――授業のなかでの教師の仕事――

子どもと子ども、そして私とのかかわりを具体的に育てていく場は、何といっても授業である。授業中、子どもたちは素朴なことばで表現してくる。それをうんと共感的に受け止めながら、そのなかにひそむよいものをほかの子にも広げていく。そういう仕事をする中で、自分に自信を持ったり級友にもところをひらいていく子になってほしいと思った。

五月のはじめに取り組んだ草野心平の「春の歌」の授業記録に、そのころの私や子どもたちの姿がよく出ている。

〈授業記録から〉

T この「ほっ まぶしいな」はどこで言うのとと思う？

①地面の中 ②地面の上 ③途中

C 全員③に挙手

T ほう、すごい！ どうしてわかるの？ そんなこと書いてないのに。

賢児 あのな、やっと出てこられたで。

K男 (小さい声で) 土の中はな……

T 何が言いたいんや? ごつつうええこと言うてるみたいやけど……、おつ、恵理子ちゃん、聞いてたか。

恵理子 土の中でずっといてたから、明るいところへ出てくると、ふっ、まぶしいなあ、て気がするの。

T うん、わかるわかる、という人。……

賢児 暗いところにならずといたからな、急にまぶしいところへきたらびっくりするの。

Y男 けんちゃんのでちよつとある。人間でやったらこうなると思う。朝起きてカーテン開けたら太陽が光ってまぶしいっていう意味。

T Y男がうまいこといったね。カーテンをぱつと開けたときにパアツと光が入ってくる。それといっしょで、ピャーときた。ほと、この「ほっ」は何やい?

C びっくりしてる。

T ほしたら、ここにも「ほっ」が出てくるやん。ここにも、ここにも、……。全部びっくりの「ほっ」かい? 俊介 「ほっ、まぶしいな」って言うてからな、きよろきよろながめてな、「もう春やなあ」て感じになってるから

な、もううれしいなあって思ったからな、「ほっ うれしいな」って言うてる。

K男 (私の手をひっぱってほそほそつぶやく)。

(みんなに) まだ、K男はこうやってしか言えへんのか。聞いたって。

「かえるがあなたから出てきたときは、「ほっ まぶしいな」で一瞬やけど、上がってきてきよろきよろしてる」と、「ああやつと出て来れたなあ」て気持ちになってる。(とK男の発言を代弁してやる)。

Y男 ずっと一年ぐらい出られへんの。

T Y男はさつきからすごいこと言うね。浩二、わかった?

浩二 うん。一年ぐらい冬眠しとるさかい、景色が見ていないさかい、うれしい。

Y男 あ、ちよつと。景色が変わってる。

K男 草とかが生えて景色が変わっている。

俊之 景色が変わってる。秋やったら茶色とかなって落ちてくるけど、緑色に変わってる。

T 冬眠するまえは、草が枯れて、風がびゅーびゅー吹いていた。それが、ひよこつと顔を出したとたんに見

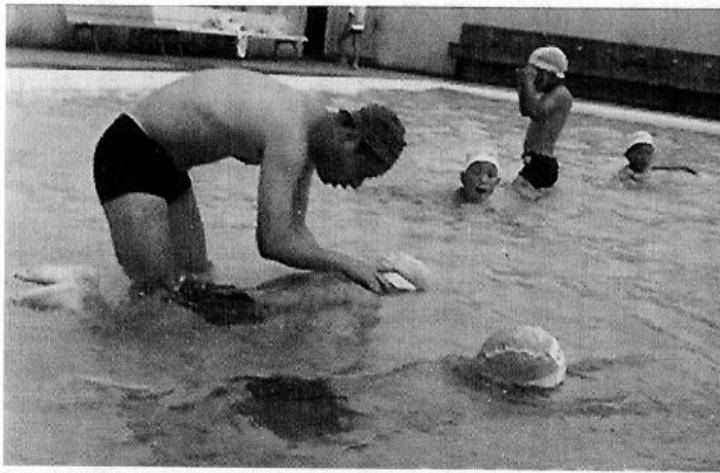
えた世界は？（K男 緑の世界） 緑の世界やったんや
な。……略……

この授業では、Y男の発言を契機にみんなで新たな読
みを切りひらいていくという感じになっている。まだつ
ぶやきだが、自分を出し始めているK男の姿もうれしく
て、私は一生懸命K男の発言を受け止めようとしている。
四月のはじめは、本もノートも出さずにぼんやりすわ
っていたK男も、わざと授業を混乱させるようなことを
言ってふざけていたY男も、こんなふうに素直に授業に
参加するようになってきているのが私はうれしかった。

みんなができることをめざして

—— 全員二五メートル達成を目標にした水泳学習 ——

六月後半から水泳が始まった。水泳指導については、
体育同志会の実践、「ドル平」から平泳ぎ・クロールへと
いう指導法を取り組んだ。この指導法ならどの子も泳げる
ようになることを、いろんな学年の子どもに試して確信
していたからである。私は、この水泳学習で一人ひとりの
意欲や学級全体の連帯感をもう一步高めたいと思った。



ドル平練習

冷夏で、思うように時間がとれなかったが、息つきか
らドル平、そして平泳ぎへと子どもたちは着実に泳力を
伸ばしていった。

高田明代

今日の水泳はとていいことがいっぱいあった。私は平泳ぎにいったし、よし彦君とかも二五mいった。みんなのおうえんと自分の力でいったんだなあと思った。二五mを夕子ちゃんたちは、ちよつといけなかったけれど、明日はきつといけると思う。私は明日平泳ぎができたらいいなあと思う。明日がんばろう。

こんなふうには、自分のことだけでなく、友だちの進歩もよろこび合いながら次の目標に向かって頑張ろうとする子どもたちの素直な姿が見える。残念ながらこの年は記録的な冷夏で全員目標達成には届かなかったが、一人ひとりが自分の泳力を高め、みんなでよろこび合えたことで、学級の連帯感もずいぶん強まったように思った。

二期の取り組み

みんなの力を合わせてつくりあげる

運動会でのソーラン節・倒立前回りの発表

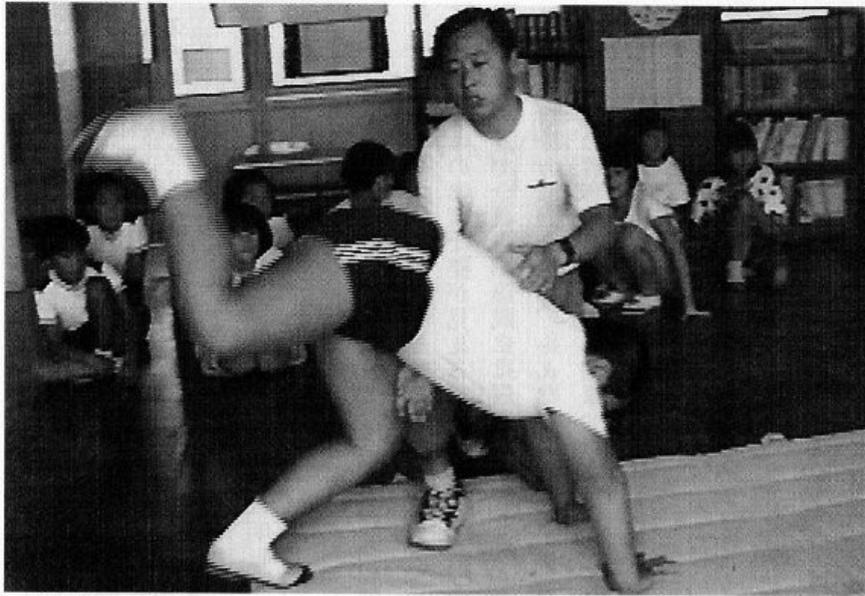
二期の学級づくりも、基本は一人ひとりの力を引き

出すことだと考えていた。そのうえで、一人ひとりの力を重ね合わせ、集団で取り組むことの値打ちも実感させたいと思っていた。

その最初の機会が運動会だった。子どもたち全員が目標めざして頑張れるもの、追求に足る内容があるもの、ということ、いろいろさがした結果、選んだのが「ソーラン節」と「倒立前回り」だった。

「ソーラン節」は、夏休みの体育同志会の実技講習会で学んだものである。「これなら子どもたちのところからだを思いっきりぶつけられる」と、勢い込んで取り組んでいた。だが、子どもたちの反応はよくなかった。「サイなあ」は「ずかしいわ」という声があちこちから聞こえた。しかし、教師が一生懸命やればこの民舞のよさばかりと子どもに伝わるという思いで、汗だくになりながら踊ってみせたり、ビデオで撮ったりしながら練習を重ねていった。

「倒立前回り」は、練習すれば必ずできるようになる種目ということで選んだ。しかし、太っているN君などは子どもの補助ではとても支え切れず、私が必死で支えてもつぶれてしまうというような状態だった。休み時間も



倒立前回りの練習

廊下にマットを敷いて特訓する日々が続いた。
こうした取り組みのなかで、最初はあまり乗り気でなかった子どもたちもしだいに本気になっていった。

「倒立前回り」 中村安裕

ぼくは、はじめぜんぜんできなかった。いつもつぶれてばかりで無理だった。「くそう」と思ってた何回もがんばった。休み時間もがんばった。やっとできた。そのときはとてもうれしかった。

本番は、ならんでしました。ひとり、二人、三人と、ぼくの番がせまってきます。ぼくは、おまじないをしてからしました。すると、とてもうまくいきました。うれしかった。そして、四人いっしょの列にもどりました。

「二番えらくてがんばったソーラン節」 多喜寿子

わたしがいちばんがんばったのがソーラン節。最初教えてもらったとき、(何これ。へんなの。しかもがにまたや。ああやなあ。はずかしい) と思っていました。練習中のはじめのほうも、やっぱり気はかわりま

せんでした。でも後になってくると、はずかしさもどこかへとんでいって、がんばれるようになれました。運動会が近づいてくるにつれて、わたしも、そのほかの人も、気がいが入ってくるようにかんじました。わたしは家でも練習しました。

とうとう、本番の日。はだしになると、なんだか、おもいつきりおどりたい気分になってきました。足をおもいつきり開いて、こしをできるだけ下におろしました。ろこぎも、あみ引きも、引っぱるところも、おもいつきりやりました。やっと全部おわりました。友だちに

「いつもより、おもいつきり、えらいわ」というと、

「わたしも、いつもよりがんばったさかい、えらいわ」と言いました。練習したかいがありました。

みんなでつくりあげたハーモニー

—— 音楽会での「子どもソーラン節」 ——

運動会でのソーラン節の取り組みの成功は、一月の

校内音楽会での合唱「子どもソーラン節」の発表にもつながっていった。

みんなで、おなかの底から思いつきり声を出して一日のいいスタートを切りたいと、一学期から毎朝、いろんな歌をうたってきた。その成果で、二学期になると、子どもたちの歌声はかなり明るく張りのあるものになってきていた。

そこで、音楽会を機会に、一つ大曲に挑戦させてみようとして、あれこれ曲を探した。そのなかで見つけたのが「子どもソーラン節」だった。この合唱曲は、四年生の手には余る高度な二部合唱曲だったが、踊りを通じてたくましいニシン漁のイメージを持っていた子どもたちは、素直に受け入れ、せいっぱい切ってくれた。

二期の子どもたち

—— 友だちを見る目にやさしさが ——

こうした取り組みで子どもたちのくらしぶりも変わっていったかというところ、相変わらずけんかもあったし、決して平和だったとは言えない。それでも、こんなことがあった。

ある日、給食の準備でエプロンをつけずに配膳していたのを注意されたY男が、すねてベランダで一人で食べていた。すると、そこへK男がお盆を持っていく。「あんまりかわいそうすぎるさかいなぐさめてたるの」と言う。以前、Y男とけんかして「殺したる！」と叫んでいたK男がこんなやさしい気遣いを見せるまでに変わってきたのかとうれしかった。そのころ「一つの花」の授業などでも、K男はみんなに臆することなく発言し始めていた。

三学期の取り組み

一年間の学んだ力を結集して

——学年全員でつくりあげた「子どもの四季」——

三学期に入って、最後にもう一つ子どもたちといっしょに全力でぶつかる仕事をしたかった。しかし、それにふさわしい内容も機会もなかった。そこで、相学級の先生と相談し、二月末の参観日に、学年全体で「学習発表会」を持ち、そこでこの一年間の子どもたちの学習の成果を発表しようということになった。

取り組んだのは、組曲「子どもの四季」である。うた

い切るのに一〇分以上かかる大曲で、一月から取り組み始め、ひと月かけて、ようやく全曲がうたえるようになった。せっかくの最後の発表だからということで、全員が必ずどこかの場面で一人の朗読かソロを受け持つことにした。

ところが、そのクライマックスのソロの部分がなかなか決まらなかった。私は、たまたま目の前にいたK男に、「おまえ、やってみないか」と言った。K男はしりごみしたが「まあ、試しにうたってみ」とそそのかした。内心では「恥ずかしくてやらないんじゃないかな」と思いながら。ところが、ピアノが鳴り始めると、K男はまっすぐに正面を向き、高く澄んだ声で朗々とソロをうたい出したのである。周りの子どもたちもびっくりしたような顔でK男を見つめ、ざわめいていた体育館が静まり返った。K男がうたい終わったとき、子どもたちから思わずため息をがもれ、拍手がわき起こった。私も、あのK男がこんなにもくつきりとした姿でうたえるようになったのかと胸が熱くなる思いだった。

そして、もう一つのクライマックスのソロを受け持ったのが、四月、授業で朗読すらできず、ささいなことに



音楽会での「子どもソーラン節」発表

傷ついていた教室を飛び出していたN男だった。

発表会当日、大勢の親の前で、子どもたちは、せいいつばいりたい、表現した。K男やN男も顔を真っ赤に紅潮させながら堂々とうたい切った。

見ていた親たちの盛んな拍手の音を聞きながら、私は、ここまで子どもたちと歩んでこられた幸せをしみじみ感じていた。

一年間を振り返って

——子どもたちは本来すばらしい力を持っている——

四月はじめの子どもたちの姿と比べれば、確かに子どもたちは変わった。しかし、それは変わったのではなく、見かけの雑然さにかくれていた本来のよさが表に出てきただけのことではないかという気がする。N男やY男を見ていてつくづくそう思う。

「学級づくりの根本は、一人ひとりの子どもの持っているよさを具体的に引き出すこと」

この子どもたちとの一年はそのことを改めて私に確信させてくれた。

学級づくり年間計画案（4年）

年間目標	<p style="text-align: center;">一人ひとりのよさが輝き、響き合う学級</p> <p>・一人ひとりの持っている力を引き出していくあゆみのなかで、子どもどうしが学び合い、支え合う学級集団に高めていく。</p>
------	--

1学期の目標	<p style="text-align: center;">一人ひとりのよさを見つけ、引き出す。</p> <p>・一人ひとりに寄り添い、その子のよさを引き出し励ましなが、自分なりに努力しようとする姿勢を生み出す</p>
--------	---

月	教科で重点とする取り組み	教科外の主な取り組み
4	☆国語……「ガオーッ」の音読学習 ・みんなで読み合うたのしさを ☆算数……「一億タイル」づくり ・みんなで力を合わせる体験を ☆体育……鉄棒の逆上がりに挑戦 ・練習し続ける粘り強さを	◎教室環境づくり ・100冊学級文庫 ◎朝の歌声タイム 「みんなで行こう」 「魔法の鈴」 「とべペガサス」 「アイヌ漁獲の歌」など
5	☆国語……「春の歌」（草野心平） ・考え合うたのしさを 群読「お祭り」（北原白秋） ・みんなで音読表現をたのしむ ☆音楽……「十日夜」の合唱練習 ・みんなが声を出せるように	◎帰りの会の5分間日記
6	☆体育……「水泳」 ・ドル平で全員25m達成めざして	
7	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">水泳大会</div>	◎学級での学習発表会 「十日夜」「お祭り」の発表

年間

2学期の目標	<p>一人ひとりの力を集めて集団としての高まりをめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの力を高めつつ、学級集団としての力も発揮させていく。
9	<p>☆体育……民舞「ソーラン節」 マット運動「倒立前回り」 ・みんなで作くりあげる体験を</p> <p>◎ 運動会</p>
10	<p>☆音楽……合唱「子どもソーラン節」 ・みんなの声を合わせて</p> <p>☆国語……「一つの花」 ・みんなで考えを出し合って</p>
11	<p>☆体育……マラソン練習 ・学級のみんなで琵琶湖一周走ろう</p> <p>◎ 校内音楽会</p>
12	<p>◎ 校内マラソン大会</p>
3学期の目標	<p>一年間の学びを結集し、集団の力を最大限に引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> 一年間学んできた力の総力をかけて追求し、学級集団のさらなる高まりをめざす。
1	<p>☆音楽……「子どもの四季」 ・一人ひとりの力を出し切って</p> <p>☆体育……とびばこ「台上前回り」 ・自分の体をしなやかにつかって</p> <p>☆国語……「ごんぎつね」 ・一人ひとりが読み込んだものを出し合い深め合う。</p>
2	<p>◎ 学習発表会 「子どもの四季」「台上前回り」</p>
3	<p>◎学級文集づくり ・一年間のあゆみを振り返って</p>